

## 御宿小学校校舎更新住民説明会（午後の部）

日時：令和6年6月22日（土）

15：15～16：45

場所：御宿町公民館

**※説明内容につきましては、午前の部と同じとなりますので、午前の部をご覧ください。**

### 【質疑応答】

（参加者A）座ったままで失礼します。前回の説明会で、子どもたちを増やすのは不可能だと思ふという回答をいただいたのですが、そのお気持ちはまだ変わりませんか。

（町長）子どもたちを増やすのは不可能だというのは非常に分かりやすい言葉です。御宿町だけでなく、全国的に人口減少して児童生徒数が減少している中で、移住、定住政策、要するに若い皆さんが御宿に来ていただけるような対策は常に考えていきたいと思ふます。福祉面や教育面での子育て政策もありますし、移住・定住に関する政策もございませうが、増やす考えはないというように言い切るわけではありませう。

特別に工場を誘致してたくさんの人を呼ぶという考えは持っておりませうが、全国全体が人口減少、子どもの数が減少している中で、難しい面があると申し上げたいところだす。しかし、できるだけ子どもたちの教育に対する魅力を可能な限り出して、保護者の皆様が御宿町に移住しようと思ってもらえるような政策を考えていきたいと思っております。

（参加者A）今、そういった計画について具体的な取り組みはありませうか。

（町長）今手元に資料はありませうが、先日の6月定例議会でそのようなご質問をいただき、20項目や30項目を出ささせていただきます。医療費や福祉政策、出産祝い金や一時金など、いろいろな政策をやらさせていただきます。

（参加者A）建て替えのタイミングをチャンスと捉えて、教育移住などに力を入れるという考えはありませうか。

（町長）教育を主眼とし、保護者の皆さんが教育政策の充実した町に移住しようと思ふのは一般的に言えるかなと思ふます。教育移住という表現の中で、特定の考えを実現することで他の物事ができなくなるようであれば、私はそれを控えたいと思ふます。現在の教育政策を踏襲しつつ、教育移住プラスアルファでいろんな可能なことができれば、教育面を見て移住しようと思ってもらえるような政策を取り入れていきたいと思ふます。

（参加者A）現在、そういったことに関しての会議や提案は進んでいないということだす

しいですか。

(町長) はい、教育行政を執行する中で、担当所管や関係団体と移住を含めて協議を全般的に行っています。

(事務局) 今の件で、教育長の方から先ほどの説明会でお話ししましたものがありますので、お伝えします。

(教育長) 今、御宿町では特色ある教育をしております。「御宿」ふるさと学習ということで、御宿を知り、御宿について考え、御宿を愛する子どもを育てるためにこれから取り組んでいきます。実際に現在手掛けているのが、「命の海洋教育」では、400年あまり前に岩和田海岸沖で発生した海難事故を元に、人の命の大切さを小学校1年生から中学3年生までの9年間発達段階に応じて今取り組んでいる状況です。この他にも御宿小学校の初代校長伊藤鬼一郎先生が、毎日五厘をあつめて今の御宿小学校の前身となる校舎を再建したという五倫鬘の教えがあります。また、童謡月の沙漠の発祥の地である。御宿独特のものであるので、子どもたちに学んでもらっています。これらの特色ある教育を進めていこうと考えています。

(参加者A) ありがとうございます。御宿のことに触れたり、御宿のことを学ぶ機会が用意されているのは素晴らしいことです。私の子どもも小学校1年生ですが、これからが楽しみなのですが、外から見てこの学習があるということだけでは「この町に住みたい」と思うには少し弱いと思います。小中一貫として進めるのであれば、人が増えるような政策を考えていただきたいです。先ほどグラフを拝見して、もし、このまま人数が減ってしまう、年少さんは10人しかなくなっちゃうんですけど、それを考えると、このタイミングでもっと力をいれたらいいんじゃないかなと思うんですけども、子どもが減っているから小中一貫校だとか、これから先、もし統合があるかもしれないとか、というのであると少し保守的な政策になってしまうのではないかなと思って私たちも少し懸念しています。町民の私たちも、行政の方たちも目指すところは一緒だと思うので、よりよい町づくりは一緒だと思うので、せっかくのタイミングで小中一貫校をずっとこだわり続けておっしゃっているのであれば、何か小中一貫について学んだのか、先生方で意見を出し合うことがあったのか気になります。いかがでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。前から同じお話をいただいております。今、教育長がお話ししたのは、御宿町にしかない史実をもとに子どもたちを育てようということです。それを表に出していけば、他にはない魅力として移住を考えてもらえるだろうということです。それを実施したいということです。すでに土台がある町というのはなかなかないので、子どもたちを教育していけば他にはないものをうちは出していけるという意味でお話しさせていただきます。

小中一貫教育というのは、両方でそれぞれやれることをやるという意味で小中一貫という

ものを出していますが、大元は、確かな学力をつけ、安心安全で子どもたちを通わせるというのが保護者の基本的な考えです。その上で、特色のある教育を取り入れていくということです。今、取り組んでいる命の海洋教育は400年前の史実があったからこそ取り組んでいます。

新しいものを取り入れるのも良いですが、御宿には既にある土台を活用して教育していきたいという考えです。よろしくお願いします。

(参加者A) 布施のバス、本当に来年から運行されるのか確認したいのですが。

(事務局) 先日、定例会で一般質問がありましたが、協議が始まりましたので、上布施、実谷、七本の子どもたちを御宿小学校に確実に送り迎えすることが決まっています。他の要望についてもありますが、今の小学校に無事に通わせるというのが第一条件で、こども園との関係もありますので、協議中のこともございますが、運行することは確実に決まっていますので、ご安心ください。以上です。

(事務局) その他、何かございますか。

(参加者B) 本当に、御宿小学校の建て替えが御宿中学校の敷地に決定したということですので、それを覆すつもりはないのですが、考えてみると、今、中学校を建てる時には小学校がそこに併設されるということが前提としてないので、現在の中学校の敷地内でその建物の余白、つまりスペースに校舎を建てなければならないという制約があると思います。それで、教育委員会の方たちも色々と苦労されているのはよくわかりますが、小学校が建てられるということですので、先ほどの町長さんのお話にもあったように、遊具の配置も大変重要なことになってきます。入り組んだ形の校舎が立った時に、遊具の配置が死角になりやすかったりしますので、そこら辺、監視カメラの設置なども考えてくださっているようですが、監視カメラを据えたからといって完全に防げるわけではなく、子どもたちがいる間ずっと見守り続ける人がいるわけでもないと思いますので、できるだけ死角の生じないように、子どもの安全を確保していただけるよう配慮していただけたらありがたいと思います。

(町長) いろいろご指摘、ご意見ありがとうございました。しっかりと考えていきたいと思っています。

(参加者C) 私は父兄の立場から、おじいさん、おばあさんの立場になってしまっているので、お聞きしたいことは、確認ですが、令和6年1月12日に議会を開いた時に、基本的に予算をつけるのは反対だということでどこにも申請ができなくなってしまったというのが、反対側が7で賛成が2議会で言ったら壊滅的な反対ですよね。この原因が説明不足だったのか、何か他の理由があるのか、そのあたりをどう捉えていて、どう打開しようとしているのか。7対2というのは基本的に「お前ら何をやってるんだ、いい加減にしろ」と言われてい

るような感じですよ。何が原因で何が足りなかったのか、そこら辺を教えてくださいか。

(町長) ありがとうございます。私が思っているのは、まず更新自体に反対の考えを持っている方がその時点でいらっしまったのかなど。そして、場所の問題ですね。場所の問題も違うお考えがあったんじゃないかと。そして、説明不足とか、あるいは、先ほどもお話しましたが、中学校に移転する場合、現在の御宿小学校の敷地が遊休地になる。その活用をどうするのか、更新の問題と同時に活用の問題を考えるのは難しいですが、そういったご意見の中で、校舎を進めると同時に、その活用も活用検討委員会などでしっかりと検討していかなければいけないと思います。色々なご意見があり、「私たちは更新に反対しないけれども、こういう状況では反対だ」という意見もあるんです。それについてはお互い協力して解決していきましょうと私は言いたいんです。私の立場からは、とにかく校舎は老朽化が進んでいるので、できるだけ早く解決の道を作って進めていきたいと思っています。

(参加者C) 今の状況が乗り切れるかどうかはわかりませんが、まずは子どもたちの安全のために今の校舎は使えなくなるので、早く手を打ちましょうということで、アンケートを取った結果、中学校と併設するのが一番良いという意見が多かった。小中一貫校として小学校中学校、兄弟姉妹が教え合うなどの交流もあり、良い試みだということになりました。それを議会にぶつけたら、小学校の活用はどうするのかという話になった。それは別の話ですよ。

小学校を中学校に移転することが重要で、それに対して前向きな話をして議事を説得することが必要です。先ほどお母さんから話がありましたが、聞いている話だけで申し訳ないですが、もう少し、お母さんたちと話し合う機会を設けたり、検討会を開いたりして、お母さんを交えた意見を聞くことも必要だと思います。継続的な仕組みを作ったらよいのではないかと思います。

(町長) いろいろな面からご検討頂いておりますことをありがたく思います。貴重なご意見として検討させて頂きたいと思います。いずれにしてもどこをどうしたらいいのか、解決の道が見つかるのかと。私の立場としてもこれだけは、ご理解頂きたいという点もごさいます。どういう接点が見つかるのかなどということを考えております。

(参加者C) ぜひ父兄の皆さんの力を借りて、早めに進めて頂ければと思います。

(事務局) 他に質疑ございませんか。

(参加者D) 3人の小学生を育てている母です。この建て替えの時期に直面しているので、どうなるのか不安しかありません。これだけ広くします、遊具はこんなところに設置しますと説明されてもわからないので、図面やCGを使って、より詳しく安心できる説明を求めています。

ます。そういう検討があると嬉しいです。よろしくお願いします。

(町長) わかりました。ありがとうございます。

(参加者E) 図面についてですが、ごめんなさい。私は去年、検討委員会にいました。検討委員会は6回やったと言いますが、私が出席したのは1回だけです。前の会議でも言いましたが、6回必ず出席できる保護者の方がメンバーに入っていた方が、話を通るのではないかと思います。6回出席している同じ保護者の方はいませんよね。会長が終わったら次の会長さんになります。

図面は先日の検討委員会で渡されました。大まかなものですが、その時に、中学の役員、小学校の役員、保育園の代表の方々が見て、これは危険だ、危ないという話が出ましたので、今回議会で止まっているということは、逆に子どもたちの安心・安全を守れたのかなと思います。

現状では、西側が出口になるという話がありましたが、前回は無理だと言われていませんでしたが、それが実現するのは良かったと思います。しかし、スクールゾーンのこともありますので、国道からの出入りは絶対に危険だと思います。間口を広げても、浅間様の方を削るということになりますかね。その辺りも新町の方は納得しているのでしょうか。

昨日もそうだったのですが、雨の日も自転車は1台も止まっていなかったもので、送迎の心配があります。国道の出入りは、いくら線を引いても出る車と入る車が増えれば最も危険だと思います。地震より先に車に引かれる方が多いのではないかと心配しています。安全を守るために再確認していただきたいと思います。

保護者の意見を聞くために、防災無線で宣伝しても、住民説明会を開いても参加者が少ないので、学校の理事会や役員会などの保護者会に出席して、意見を聞くのが良いと思います。わざわざ来てくださいますと言っても来る人は少ないでしょうし、先日の議員説明会も意見が言えないまま終わってしまいました。本当に保護者の意見を聞きたいなら、アンケートでの結果だけでなく、保護者を集めて意見を聞くべきです。

図面についてですが、本当ならもう出ているはずですよ。すごい図面です。以上です。

(事務局) 訂正させていただきます。会長さんが出席した時の1回だけの会議は、次の施設検討委員会です。先ほど会長が説明していた6回の施設検討委員会は、前の会長の時に1年間かけて6回行われました。前の会長は6回とも出席して意見を聞いています。本来それを続けて行ければよかったんですが、今回、基本設計の委託費が否決されたため、一旦会議ができなくなっているのが今の実情です。

その時にお示した図面は、基本的な教室の配置だけで、はっきりした図面は基本設計の後にお示しして、皆様と話し合いをするためのものでした。しかし、その図面の場所が危険で問題があるとのことだったため、再検討して一旦白紙になっています。現在は、新しい場所から再検討しています。議員の皆様とも話し合いをする前の段階で、私たちの方で検討し、不安を払拭するために進めています。図面はまだできていませんし、保護者の意見も今後反

映していく作業が必要です。今決めなければならないのは御宿小学校をどこに建てるかということではなく、町長が御宿小学校の場所を、御宿中学校に決めましたというところで止まっているということです。そのため、中学校の中のどこに何を建てるかはまだ決まっています。

(参加者E) 学校に出向いて、保護者の方々に話をするのが良いと思います。お忙しいとは思いますが。

(事務局) 説明できるのがそこまでの段階の話です。保護者の皆様がその先のことを知りたいのはわかります。今までにいただいた要望も控えてあります。学校に出向いて要望をお伺いしたとしても同じ要望をいただくことになることもありますので、実際に図面を作れるような状況になったときにやるというのがよいと考えています。

(参加者E) 図面が出来たらでも良いんですけども、現在、保護者たちが不安ということで、進捗状況を発信するだけでも違うと思います。

(参加者D) 関心が生まれ、意見が出るでしょう。

(参加者E) もっと多くの保護者に意見を聞くべきです。土曜日の昼にこれだけしか参加者が集まらないことを考えた方が良いでしょう。私はもう子どもが卒業しまったので、次の計画が決まるまで大丈夫です。

(事務局) はい。全く楽観的に考えているわけではないのですが、やはりすごく関心のあるお母さんたちは、毎回顔見知りのようによく知っていますが、そこまでの要望がないお母さんたちもいるのかなという感じで考えています。

(参加者) そういったことをいってしまったら話になりません。

(事務局) すごく参加していただければありがたいですが、ただ、今の状況の中でまず打開しないと、前向きな話にはならないというのも事実なので、その点はお伝えしておきます。

(参加者A) 要望が全くないわけではありません。あるのですが、言ってもこういうことになるなというのを皆さん思っていて、私たちもここに出向いている私たちでさえ、意見が反映されているとは全く思っていないです。申し訳ないですが。

完璧なものを出すのは行政がやってくれることで、本来なら私たちが懸念したり、不安になったりすることではないと思うんです。なので、行政が良い方向に進めてくれるだろうと信じている親もいると思います。彼らは、子育て中だったり、仕事が大変だったり、自分の生活を整えるのが大変だからこういうところに来ないわけで。ちゃんとやってくれるのよねという期待を込めて来ない人たちもいますし、何もやってないとは思っていません。私たち

は目指すところは同じだと思っています。本当により良い御宿町を目指しているのだと思っています。来ないからといって意見がないというわけではありません。

(参加者E) 逆に、言っても反映されないから、議員さんとかに言って、議員さんたちが今回はやめましょうという風に決めたのかもしれないなど。

(事務局) 私たちの考え方からすると、全くゼロに戻ったという話ではありません。御宿中学校には決まっている状況で、その中でどうしたら予算が通るかという話になっているということです。ゼロに戻ったように思われるのは違います。

(参加者E) 皆さんが中学校に建てることに反対しているわけではありません。

(事務局) いや、反対している人もいるので、こういう状況になっているんです。

(参加者E) 建てるにはどうしたらいいかということで、もう一度止まって話し合いましょうという内容ですよ。

(事務局) 私がさっきお話ししたのは、結構皆さんからの要望がすごく多く、文章やアンケートでもたくさんいただいていますので、それはきちんと受け止めていますよという話です。その他のお母さん、来ていないお母さんたちも、やはりそこに意見があるのではないかと思いますので、そのために来ていない人もいるのではないかという話をしただけなので、全くこちらに任せてもらっていますという話ではないです。その辺りの理解をしていただきたいです。だから、いろいろな方法で皆さんのご意見をいただく手法の一つとして、住民説明会をやっています。そして、アンケートもやってきました。そういう中で、町長が最終的に御宿中学校に決めましたというところまでが決まって、その先のことをやろうとした段階で今止まっているということを今日説明していますので、よろしくお願ひします。

(参加者E) でも、もう少し子育て世代の方が出るような説明会をしないと、午前中に 50 人ぐらいなのかしら。有線が聞こえなかったのでしょうか。

(参加者A) 有線聞いても、多分もう、子育て世代はちょっと苦しいのです。仕事の日子どもを見ているし、私も前の仕事以外では、学校行事とかがありますから。

(参加者F) すいません。私、午前中の会も参加してまして、午後も参加しています。このメンバーで何人かは午前も午後もいます。それで、私が午前中に言ったことを、今度は違う形でお母さんたちから出てきています。要するに、私が言ったのは、御宿中学校に決まっている前提です。私は、議会の傍聴はほとんどして、何人かの方とはよく会ったりしています。そういうのをずっと議会で見えてまして、今回、YouTube で出るようになって、す

ごく良かったなと思うんですけども。

まず、午前中に言ったことは、まず、その前提がありました。どんな学校を建てるかとか、そういうことをお母さんたちが、集まってきてみんなで決めることが大事です。それを決める時にお任せするのは無理があるかもしれませんが、できるだけ皆さんで作っていく形にした方がいいと思います。午前中に言ったのは、五倫文庫というのはすごく大事にしている文化だから。令和の五倫文庫のようにして、お金がなくてもみんなの知恵で何かができるかもしれないから。そうすると、また100年後に、あの時の町長はすごいねってなるかもしれない。だから、お金とかではなく、議会で見ていて思ったのは、御宿中学校を建てることで町長がやっているけど、否決されたらと議会で言っていましたけど、2人だけ賛成で、他の全員が否決したというのはよほどのことだと思うんです。だから、そういうことをもっと真剣に受け取って、どこに問題があったとか、どんなやり方がいけなかったのか、何がいけなかったのかを考えないと、将来的にはあまり展望がなくて、ただ方法を変えるだけでは意味がありません。アンケートについても、先ほどは1,000人ではなくて1,000のお宅に送ったと町長が言っていましたけど、実際には1,000人ではなく、小さな町ですので、町内全世帯にアンケートを送って、その中で集まってきたら、全員の方にお配りしましたと。その中でこれだけ集まりましたという、そうすればアンケートの比率がすごく上がると思うし、やり方をもっと考えてやっていけばいいんじゃないかと思うんです。

私は布施の人間ですので、小学校空いていますからどうぞ布施小学校を使ってくださいと思いますし、本当に良いものを作るためにはこういう理由があって遅くなってしまったと言えば、皆さん納得すると思うんです。もう少し考え方を柔らかくして、どうやったらいい学校を作れるのが大事であって、午前中の会議ですと、毎年5月までに出さないといけないうことでしたので、何年もかかっても良いわけではなくて、来年の5月ということでしたら、今からどうやっていくのか、先ほどお母さんも言っていた子育て中の方たちが参加しやすいように、いろんな手法を使って、どうしたら生の声を聞けるかなんかということをやらないと行けないと思うんです。前会長と同じことを言ってもしょうがないんですけど、ここに何人かの方は初めての方もいらっしゃるんで、また言いますけど。すみませんね、それだけです。

(参加者C) お話を伺っていて思ったのですが、町の方は、そして保護者の皆さんも、中学校に移転するということはもういいんだ、決まったと言っていましたね。そうなんですか。なんかまだ掘り返している議員多いとかいう話もあって、でも中学校に決まっていると。ただ、今回の反対は、先ほど言われたように、町がこういうのを作りたいと言ったら、図面を見たら危険だと、子どもに対して。だから、議員さんが反対して良かったという話をしていましたね。そうなんですか、受け止め方は。町長が少し迷ったような形で、子どもたちが危険だから移転しないといけないのはもうずっと前に分かっていたことではないか。アンケートをやったら、3割近くの回収率があって、中学校に行こうというのが決まったんだという順番だったけど、決まったことをまた蒸し返している議員がいるような雰囲気だったから、中学校に決まったというのは、決まったんですか、議会で。我々町民はそう考えていいんで



すか。

(町長) はい、ありがとうございます。場所を決定することは議決の内容ではないんです。予算について先ほど申し上げましたけど、施設検討委員会の中で2つの候補地が出されて、その中で決定権を持つ長の権限で決めさせていただきました。それについて、ご指摘のように、100%賛成されていないと、議員の皆さんが。その反対がいくつかあって、2対7とかありましたが、その中には、中学校はいかかなものかという考えがあったのではないかと私は感じています。しかしながら、私は何度も申し上げますが、災害があった時は津波のことも考えなければならないので、できるだけ少しでも高い方がいいということの1つの根拠があります。先ほど申し上げましたように、災害に対して、あるいは財政上の問題、環境の問題、小中一貫を目指す問題、総合的に勘案して、私は半年間の間熟考させていただいて、昨年7月に初めて議員さんの前で意見交換の中で申し上げたんです。それ以来、8月に住民説明会で町民の皆様には私こう考えていますと申し上げ、9月1日の議会の皆様方に報告させていただきました。私こう考えていますと。これ議決案件ではありません、場所は。そういうことです。

(事務局) その他にございますでしょうか。

(参加者A) マイクは結構です。私が提案したいのですが、根底から覆す形になりますが、布施小にして校舎を建てるお金をバスに当てて、バスで子どもたちを送迎するという案です。それを何度も繰り返し、町民も乗れるバスにするのです。現在、委託で運営されていると思いますが、そのバスを、町内を循環するバスのようにして、ぐるぐる回るバスを作るといのはどうでしょうか。こうした意見はありましたか。高台に移転するということになるのと、布施小が一番高くなると思います。

(事務局) 布施小学校の今の校舎ですが、先ほどから話題に上がっていますが、布施小学校が建設されたのが昭和48年ですので、御宿小学校と同じような状況にある建物です。そのため、布施小学校に移すのであれば、やはり新しい建物を建てる必要があります。高台で安全であっても、建物自体が安全でないという判定になるわけです。ですから、その点についてはご理解いただければと思います。空いているということはいつでも利用可能な状態ではありますが、すぐに使うという話にはならないのが私たちの考えです。

(参加者A) いすみ市に売却するという話は本当ですか。

(事務局) 現在、布施小学校統合に伴い、今回の議会で組合が解散することになりました。この組合はいすみ市、御宿町双方の出資で運営されている組合です。その解散に伴い、財産の処分については現在協議中です。建物は双方のものであるため、どちらにするのかという点をうまく決められるのか、例えば売却して借金を返済するなどの話が出ていますが、その

辺りはまだ協議中ですので、具体的には決まっていないため、あまり詳細についてはお話しできません。

(参加者H) 新町に住んでいます。よろしくお願ひします。こうして説明会を何度も開いていただき、また町の議会が予算を否決した際にも報告会を開いていただき、町民に様々なことが浸透してきたと思います。いただいたご意見を、教育課長は心の隅にずっと持ちながら、この問題に取り組んでいくと思います。時の問題がありますので、災害はいつ来るか分からないため、良いものを早く作ることが重要です。現在、子育てをしている方々のためにも、肩の荷を下ろせるよう、早く良い施設を作ることが大事です。皆様のご意見をしっかり受け止め、汲み取るシステムを作っていただいていることに感謝しています。

年寄りとして、この町を次の世代に引き渡すために、そうしたシステムが整ってきていることを非常に嬉しく思います。皆様のご意見をしっかりと汲み取りながら、次の段階へと進んでいくことが大切です。堂々巡りを続けずに、1日でも早く次の段階に進んで、良い町を作りたい。有休地に複合施設を建設すれば、ワークができる場所ができれば人々が集まります。女性が増えれば、人口も増えるはずです。そして、小中一貫教育が義務教育学校となり、中学校3年生が小学校1年生の学童保育の手伝いをするこゝで、教員になりたいという意欲が芽生えるかもしれません。その子たちが進学し、大多喜高校は、教育課程を専攻するための特別クラスを持つようとしています。そのため、全てが繋がっていくのです。まずは、きちんとした形で次の段階へ進んでいただければ、年寄りとしては非常にありがたいです。こうした場を設けていただき、ありがとうございます。

(事務局) ありがとうございます。その他にご意見はございますか。それでは、時間も随分押しましたので、ここで終了させていただきたいと思ひます。長時間にわたり、御宿小学校校舎更新住民説明会にご参加いただき、ありがとうございます。以上をもちまして住民説明会を終了いたします。

(町長) 最後に一言、御礼の言葉を申し上げます。様々な角度から、多くのご意見をいただきました。最も重要なことは、子どもたちのためにしっかりとした教育環境をどう整えるかということです。全てのご意見を100%取り入れるのは難しいかもしれませんが、可能な限り取り入れるべきところは取り入れ、しっかりとした柱を作っていきたいと考えています。今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございます。